

青少年育成センターだより

第204号 2025. 4. 15

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター



0835-25-2922

短所を矯めようとするよりも長所を伸ばす^た(矯める・・・まがっているのをまっすぐにする)



以前、公民館が主催する家庭教育学級「子育ての会」に行った時のことです。お母さんたちが、子どものことをどれだけ知っているかを確認してもらいたいという目的で、「子どもの良い面（長所）を10個挙げてください」、「子どもの気になる面（短所）を10個挙げてください」という質問用紙を配布し、お母さんたちに書いてもらったことがあります。

いかがでしょう？みなさんはどれだけ書けますか。今、紙と鉛筆があったら、書いてみてください・・・。簡単なようですが、なかなか書けないものです。

長所として書かれていたのが、「素直」「明るい」「手伝いをしてくれる」「やさしい」「元気」「友達と仲良くする」「毎日元気に登校している」・・・等々。

短所として、「整理・整頓ができない」「我慢ができない」「落ち着きがない」「好き嫌が多い」「集中力がない」「消極的である」「頑固である」・・・等々。お母さんたちは、いろいろな長所、短所を書いていました。

お母さんたちが質問紙に記入している姿に気になることがありました。それは、会場にいた多くのお母さんたちが、短所を先に書き始めたこと、そして長所よりも短所のほうが多くの数が書かれていたことです。私も、子育てをしてきましたから、その気持ちも分かるような気がします。親として、長所を見るよりも、短所を何とか直してやりたいという気持ちのほうが強いのではないかと思います。

でも、なかなか短所は直らないものです。直そうと考えるよりも、長所をさらに伸ばしてやろうという考え方に変えたほうが親として気が楽になります。また子どもも、お父さんやお母さんからできないことを口うるさく言われるより、できることを褒めてもらったほうが気持ちよく生活でき、親から愛されているということを感じられると思います。

子どもの短所が気になるようであれば、次のように考えたらどうでしょうか。それは子どものできていないことや短所を一方向から見ないようにすることです。例えば、「落ち着きがない」→「好奇心が旺盛」、「集中力がない」→「切り替えが早い」、また「消極的」→「慎重」というように見方を変えてみてはどうでしょうか。短所のように見えることもひょっとして長所なのかもしれないという見方をするようにしてみましょう。

これまでの偉人たちも短所をもち、コンプレックスを持ちながらも、長所を伸ばすことにより大きな成果を残したのではないのでしょうか。“今の時点では、短所であるかもしれないが、一生生きていく上で素晴らしい長所になるかもしれない”と考えませんか。

著名な解剖学者である養老孟司さんが、「人生の壁」（新潮新書）という著書の中に次のように書いておられます。“一、二歳くらいまでに褒めて育てた子どもたちと、そうでない子どもたちとではその後の社会での能力に大きな差が出たといいます。別に大きくなったら褒めなくてよいというのではなく、基本的に褒めて育てるのは大切だともいいます。もちろんしつけは大切ですが、とくに乳幼児期には褒められることのほうがはるかに必要だということです”と。褒めて育てることの大切さについて考えてみましょう。

青少年育成センター 指導員 藤村